



市政報告 ～誇れる街、中区～

発行: 自民党横浜市議員団
編集: いなみ俊之助事務所
<http://inami-yokohama.com>

市議員 **いなみ 俊之助** としのすけ

<https://www.facebook.com/inamitoshinosuke> http://instagram.com/inami_toshinosuke

【横浜市会 平成29年度決算特別委員会 局別審査】

10/15、所属する決算特別第2委員会が開催され【消防局審査】にて質問に立ちました。

- 1.平成29年度決算総括
 - 2.消防団活動充実強化と消防団への入団促進
 - 3.ラグビーワールドカップ 2019 東京 2020 オリンピック・パラリンピックに向けた消防体制
 - 4.救急体制の充実・強化
 - 5.平成30年7月豪雨の対応
- 以上5項目19問



小林 副市長 答弁 高坂 消防局長 答弁

いなみのおもい 消防局の任務は、【命】ではないでしょうか。今夏の記録的な猛暑による熱中症をはじめとした横浜市消防局の救急隊の出場件数は過去最高となりました。【命】にかかわる以上、思い切った予算措置を講じるべきだと考えます。救急隊は今年度、77隊配備となり国の指針の充足率100%となりますが、347万人の人口と共に、国際イベントでの来街者を見越した独自の配備を実施する必要があります。又、いざ災害時、消防団が地域の要である以上、支援体制の強化をすべき。

10/19、所属する決算特別第2委員会が開催され【政策局審査】にて質問に立ちました。

- 1.市政運営
 - 2.市外転出者意識調査
 - 3.新たな劇場整備の検討
 - 4.海洋都市横浜の取組
 - 5.女性活躍の推進
 - 6.根岸住宅地区の返還後のまちづくり
 - 7.国際園芸博覧会の招致推進
- 以上7項目27問



小林 副市長 答弁 伊地知 政策局長 答弁

いなみのおもい 横浜市は現在、少子・超高齢社会です。中区も同様です。来年、横浜市の人口はピークとなり、ゆるやかに人口減社会に突入します。いわば人口減少少子超高齢社会への挑戦がはじまります。真の福祉目線とは、介護現場が資格社会である以上、市職員の介護職員初任者研修資格取得が将来の横浜市の在り方を大きく左右すると確信しております。また、横浜だからできる国際イベントなどを通じ、市内転入者増につながる施策をどうとらえるのか、併せて喫緊の課題です。

10/23、所属する決算特別第2委員会が開催され【総務局審査】にて質問に立ちました。

- 1.平成29年度決算
 - 2.防災行政用無線等
 - 3.高齢者の視点に立った防災訓練
 - 4.区における防災訓練の実施
 - 5.福祉に関する体験型研修の充実
 - 6.働き方改革と市の将来を支える職員の育成
- 以上6項目18問



渡辺 副市長 答弁 大久保 総務局長 答弁

いなみのおもい 市民意識調査の1位は【災害対策】。危機管理は総務局。各地域防災拠点訓練は、小・中学生の参加を授業の一環で取り入れるべきです。日中の災害では、現役世代の多くは仕事で職場中心の中、戦力は中学生です。校長のリーダーシップが求められますが、教育委員会、地域の連携のもと総務局が全校実施にむけて主導すべきと考えます。職員研修に於いても、上記政策局でも触れましたが、各局独自の福祉研修ではなく、介護現場に基づく資格取得が急務です。

